

1 はじめに

本校は、枕崎市の中心に位置し、全校児童407名の学校である。二年目のN I E実践校となった。

新聞を活用することで、学力向上や社会で起きている様々な事象に関心を持つことを期待している。昨年度同様テーマは、「新聞に親しみ、興味関心をもって主体的に活用する子どもの育成」とし、実践を行った。

2 実践内容

- (1) コミュニケーションタイム（てきばきプレゼン）の実施
- (2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置
- (3) 授業の実践
- (4) はがき新聞の作成
- (5) 新聞社への投稿
- (6) 校内はがき新聞コンクールの実施

3 実際

(1) コミュニケーションタイム（てきばきプレゼン）の実施

本年度より月曜朝の15分にコミュニケーションタイムを設け、児童のコミュニケーションスキルを伸ばすよう実践をしている。その時間に、新聞を活用し、高学年でてきばきプレゼンを行った。週末の家庭学習で新聞から気になる記事を選び、「なぜその記事を選んだのか」、「どう思ったか」、「意見・提案」などをワークシートに記入する。そのワークシートを持ちより月曜日の朝に一人30秒間でプレゼンし、その後、自由に記事についての話をすることにした。本実践は昨年度からの継続実践である。昨年度5・6年生だけの取組だったが、本年度は4年生も取り組むことにした。



【写真1 てきばきプレゼンの様子】



【写真2 てきばきプレゼンの発表用紙】



【写真3 てきばきプレゼンの記事 南日本新聞令和2年12月16日付】

(2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置

昨年度5・6年生に設置した手作りの新聞閲覧台は、第二弾として4年生の2学級にも設置された。これにより、身近に新聞がある環境が整い、子どもたちが隙間時間に新聞を読むことができるようになった。図書室横の廊下にも昨年度同様、司書教諭が気になる新聞の切り抜きを掲載した。児童が図書室に行く際に足を留めて記事を読む姿が見られた。

(3) 授業の実際

① 4年「新聞を書こう」（国語科）

新聞の作り方や読み方、要約の仕方などを南日本新聞の記者の方に教えていただいた。その後、回し読み新聞作りを行い、新聞を読むことの面白さに触れることができた。授業後の感想文は新聞にも掲載された。

② 4年「水はどこから」（社会科）

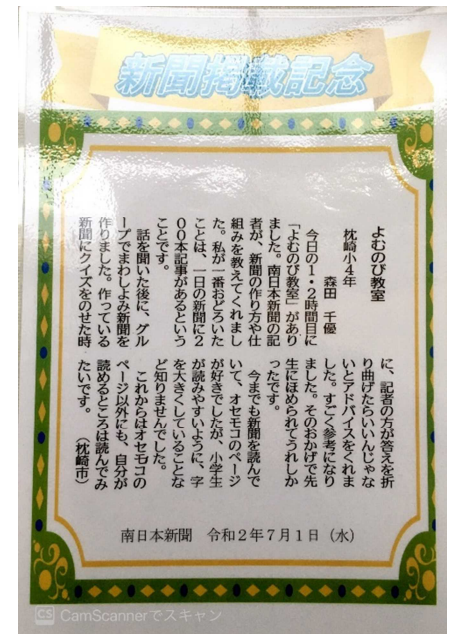
「水はどこから」の単元の終末で節水について考える際、南日本新聞の記者さんに情報を頂いた岐阜県の新聞記事を紹介した。新型コロナウイルスの流行で水道の使用料が増えたことを知らせる記事で、学習したことと実際の社会で起きていることを関連させて、節水の重要性を考えることができた。

③ 5年「新聞を読もう」（国語科）

新聞が5W1Hを大切に書かれていることや記事の構成の仕方、見出し・リード文・本文の逆三角形の構成について学習できた。

(4) はがき新聞の作成

昨年度同様新聞記事の内容をより深く理解するためにはがき新聞づくりを行った。はがき新聞づくりは、学習のまとめとしてや長期休みの感想新聞、新聞を読んだ意見・感想を書くなど様々な場面で活用した。はがきサイズの新聞づくりなので、児童への負担も少なく、喜んで作る児童が多かった。新聞の構成を身に付けることにも役立てられた。本年度は4・5・6年生の学年掲示板で常設してはがき新聞を掲示し、継続した取組・掲示をすることができた。



【写真4 掲載された新聞投稿】



【写真5 はがき新聞の掲示板】

(5) 新聞社への投稿

新聞により親しみを持つために、南日本新聞の「若い目」欄への投稿をした。各学年で行事の感想文や良い日記など投稿を行った。本年度は3点掲載された（令和2年12月現在）。

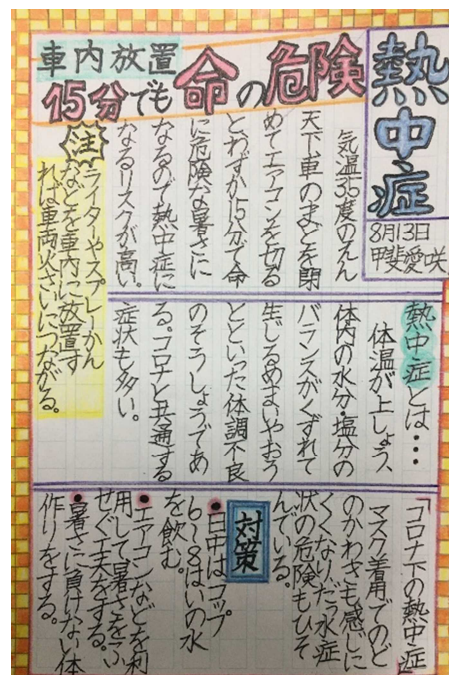
(6) 校内はがき新聞コンクールの実施

本年度は新しく、校内はがき新聞コンクールを実施した。本年度は新型コロナウイルスの影響があり、夏季休暇の短縮・ステイホームでの長期休みとなったことから、例年行っていたB4サイズの夏休みの思い出新聞作りでなく、4・5・6年生が普段取り組んでいるはがき新聞に、新聞を読んだ意見・感想などをまとめて書き、良い作品を表彰する校内コンクールを実施した。自由参加だったが全校児童の約6割がコンクールに参加した。

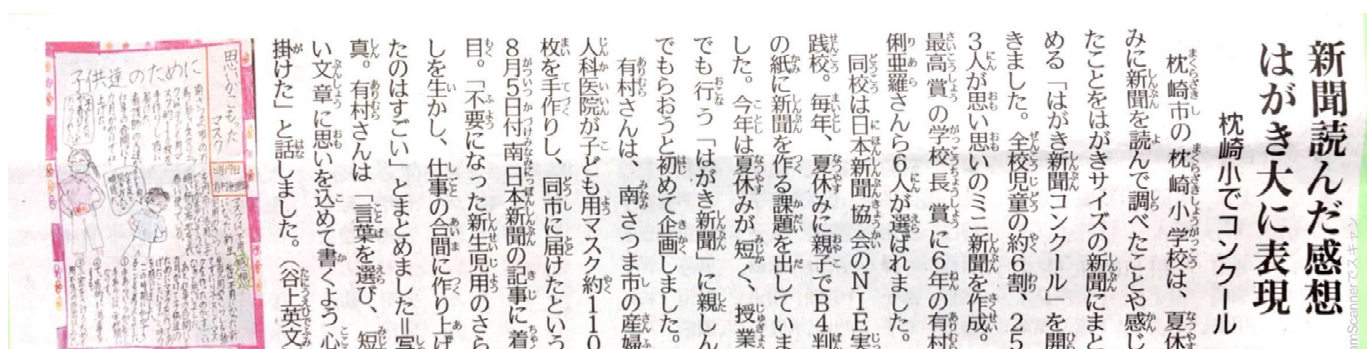
中には保護者と一緒に一生懸命作った低学年の作品もあり、保護者の啓発の一環にもなったと感じた。学校長賞と南日本新聞社さんにも協力を頂き、読者センター長賞を設け、表彰した。優秀作品は校内文化祭で掲示し、子どもたちはもとより保護者や地域の方にも見ていただいた。取り組みのことを、南日本新聞の記者の方に取材して頂き新聞に掲載されたことで、より新聞を読みたいという意欲が高まっている児童もいた。



【写真6 優秀賞の作品を見る児童】



【写真7 学校長賞受賞作品】



【写真8】新聞に掲載された校内はがき新聞コンクールの紹介 南日本新聞令和2年11月20日付

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 本年度は新型コロナウイルスの影響から学級PTAが中止になったり内容を精選して行うことになったりした。なので、保護者への啓発の機会が前年度より少なくなったが、校内はがき新聞コンクールを開催したことによって、たくさんの児童と保護者（特に下学年）が一緒に取り組んでいた様子があり啓発の一環になった。
- ・ はがき新聞コンクールを開くことによって、下学年にも新聞を読む機会を設けることができた。
- ・ てきぱきプレゼンを行うことによって、社会で起きていることを話題に話をすることができた。本年度初めて実施した4年生でも、自分の関心がある記事について話すことができた。

(2) 課題

- ・ 新聞を活用するために、教師自身が新聞を読む時間を設けたいが、なかなか実現できなかった。
- ・ 校内はがき新聞コンクールに新聞を貼らせるようにすると、記事との関連が分かりやすくなると感じたので、来年度は改良して取り組みたい。